

えひめ経済人

わが社の 首脳陣



橋丈太郎社長



山ノ内晶子
営業部
売掛事務リーダー



古森繁一
営業部
東予エリアリーダー

地産地消品ぞろえ多様

松宮(松山市)

昨年、設立60周年を迎えた総合食品卸業の松宮(松山市)。医療福祉施設や学校向けの給食を中心にスーパーの総菜用など、野菜やかんきつ加工品といった多様な商品を提供している。

橋丈太郎社長(51)の祖母の故・宅宮(旧姓橋)千種さんが1956年、松山市の千舟町通りに「ライオン薬局」を開業したのが始まり。63年、日用雑貨を扱うに当たり、支援を受けた松本薬品一と、創業者の名字から1字ずつ取って松宮産業を設立。業務用食材も扱うようになった。

橋社長は大学卒業後、県外で働いていたが、当時社

長(現会長)だった父が体調を崩したため29歳で帰郷し入社。倉庫作業や配送、営業といった部署を数カ月ごとで回るなどして経験を積み2012年、社長に就いた。古くから取引がある地元企業に給食用の商品を作ってもらおうなど、いち早く地産地消に取り組み、さまざまなお品が揃うようになり、販売先に新しい提案ができていくと胸を張る。

史跡巡りが好きで、出張や会合出席の際は、その土地を巡る時間を楽しみにしている。

営業部東予エリアリーダーの古森繁一さん(42)は今治市の学校給食を担当。古森さんの提案で、3年前から市内の児童が描いた絵を地元産かんきつのジャムやゼリーの商品パッケージに貼って提供している。今、納入業者が増えて価格競争が激しい。地産地消や地元密着はうちにはかない強み」と力を込める。休日は動画鑑賞やゲームでリラック스에努める。

研修に参加し視野が広がったという。周囲に困り事を聞き無駄を改善。電話での注文が多い納入先用に発注書を作り電話対応をなくすなど業務を見直し、残業時間の削減につなげた。

女性や子育て世代が働きやすい職場づくりに力を入れ、女性管理職の割合は28%。出産や育児に関する独自の有給制度を設け、昨年度は男女各2人の従業員が育児休業を取得した。

橋社長は「お客さまに愛着を持ってもらい、信頼を持ってもらえる商品を届けたい」と、幅広い世代の楽しい食卓を支える意気込みを語った。(河野茜)

【メモ】1963年設立。県内外の約2千社に約1万数千点の商品を卸す。資本金1千万円。従業員57人。2023年9月期の売上高は27億1200万円。